

## 令和7年度 第2回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

### 【開催日時・場所】

令和8年3月27日（金） 午前10時00分～午前11時40分  
八雲町役場2階 第1・第2会議室

### 【出席者】

別紙のとおり

### 【議題】

#### 1 開 会

#### 2 委嘱状交付

#### 3 町長あいさつ

本日は年度末の大変お忙しいなか、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

また、委員の皆様には日頃より町政に対し、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。昨年10月に町長に就任し、約5カ月余りが過ぎ去りました。この間、色々な出来事がございました。1つ目が、役場新庁舎の入札不調問題であります。町民の皆様にご心配と不安をお掛けしておりますことに、大変申し訳なく思っているところでございます。建築工事、建築主体工事の2回の入札不調を受けてのこれまでの経緯と今後の考え方、スケジュールにつきましては、この後の議事で、担当よりご説明申し上げますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。2つ目は職員の横領事件、そして総合病院の医師の暴行事件、保育士の盗撮事件ということで、逮捕事案がございました。

町民の皆様にお詫びを申し上げますとともに、町のトップとして責任を感じているところでございます。お詫び申し上げます。

現在わが国全体で人口減少、少子高齢化という大きな課題に直面しており、当町におきましても例外ではございません。加えて、物価や資材の高騰、人手不足の深刻化など、地域経済や住民生活を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。今後、庁舎建設の大型事業を控えており、これまでのようなふるさと納税に頼った行政運用を改め、基金に依存しない健全財政を維持し、持続可能な町づくりを進めるため、一般会計、病院会計などの行財政改革を進めていかなければならないと思っているところでございます。

第2期総合計画も、あと2年を残すところとなっており、次期計画の策定を令和8年度から二か年かけて作成する予定としてございます。重要となるのは、将来を見据えた計画的なまちづくりであります。令和8年度から計画策定に向けた検討を進めてまいります。これからのまちづくりにおいては、北海道新幹線開業に向けた新八雲駅周辺整備や八雲らしさをいかに磨き、次世代へ

つなげていくかが大きな鍵になると考えております。

農業、漁業をはじめとする基幹産業の振興を、日本海と太平洋の2つの海に囲まれた豊かな食資源、さらには、自然環境や地域のつながりといった強みを最大限に生かしながら、持続可能な地域づくりを進めていく必要がございます。また、医療や福祉、教育、防災といった暮らしの基盤をしっかりとしつつ、関係人口の創出やDX、GXの推進など新たな視点を取り入れていかなければなりません。地域の魅力を高め、住み続けたい、関わり続けたいと思っただけのまちを目指していくことが重要であると思っております。

本日は、私が町長に就任して初めての開発委員会でございますが、それぞれの立場から、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げまして開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

#### 4 会長・副会長の選出について

立候補者なく事務局案にて選出

会 長：八雲町内会連絡協議会 大野 尚司 氏

副会長：熊石町内会連絡協議会 井口 啓吉 氏

##### 会長あいさつ（大野会長）

ただいま会長に就任しました町連協の大野でございます。 よろしくお願いたします。

委員の皆様におかれましては、年度末で大変お忙しいなかご出席ご苦労様です。

この委員会は、町の産業、経済、福祉、教育、文化など、住民福祉の向上に資するため、各種の施策について委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただき、長期展望に立ったまちづくりを考えていく会でございますので、よろしくお願を申し上げましてご挨拶とさせていただきます。 よろしくお願いたします。

#### 5 報告事項

##### (1) 第2期八雲町総合計画 実施計画書（令和6年度～令和8年度）

別紙資料1に沿って植木政策推進課企画係長より説明

##### 【佐藤（智）委員】

函館バスの運行便が1便減ることに伴って、4月から町がバスを無料で走らせるというのが広報に掲載されていましたが、この実施計画の中に事業費は載っていますか。

##### 【戸田政策推進課参事】

4月からの函館バス減便にともなう町有バスの臨時運行の件ですが、減便については今年1月下旬に函館バスから話があり、2月上旬に正式に減便するという通知がありました。その時点で、町の予算編成は終わっておりましたので当初予算には計上しておりません。

4月から運行させる必要があったため、様々な代替策を検討しましたが、道路運送法の手続き等の制

約もあったことから、「町が無償で運行する」という案が、各種届出が不要というメリットがあり対応可能であると考えました。運行にあたっては、運転手の人件費や車両の燃料代は発生しますが、町のバスを使い、町の職員により運行しますので、現行の予算で対応するというところで実施計画には掲載していませんのでご理解願います。

**【佐藤（馨）委員】**

16 ページ高齢者等入浴料助成事業について関連しますが、入浴施設はやすらぎの場であり、残してほしいという声を聞きます。経費の問題があるかと思いますが、町民が気軽に利用できるような施設はできないでしょうか。

また、過去の総合開発委員会において、八雲町を訪れる方へのおもてなしの心が大切だと提言しました。各記念碑や看板標識が劣化して分かりにくいですが、当時整備を検討しますと回答いただいていたのですが、進んでいないように見えます。

**【石黒保健福祉課長】**

高齢者の入浴の関係についてですが、シルバープラザに入浴施設がございましたが、現在のところ封鎖しております。令和7年度は高齢者等入浴助成事業における助成額は200円ですが、令和8年度からは、高齢者の健康増進を目的に助成額を300円に拡大し、支援していく予定ですのでよろしく願います。

**【竹内副町長】**

多くの方が訪れる八雲の観光名所はスポット等の施設全体を見渡して整備をしているというわけではございません。黒岩や栄浜にあるウエルカムサインや“自然美術館”というCI事業で作成した看板が老朽化してきているため、令和8年度には新しく作成することを計画しております。直せるところから整備していきたいと考えておりますのでよろしく願います。

**【佐藤（馨）委員】**

入浴の関係ですが、昭和湯の件はもうだめなのでしょう。これに代わって何か町でできる対策はないでしょうか。

**【萬谷町長】**

一般公衆浴場である昭和湯は10年以上前から閉鎖している状況です。他の方が買い取り、修理して再開するという話があり町とも協議を進めていましたが、その方が難しいと判断し途中で話が頓挫してしまいました。町が公衆浴場を運営するのは難しいため、現段階では昭和湯の復活は無理だと思っています。町内には他にも温泉施設があり、通えるように入浴券を交付しています。はびあ八雲からは乗合の車も走らせている状況ですのでご理解願いたい。

**【阿部委員】**

新年度から出産祝い金交付事業が実施されます。少子高齢化対策のためと考えられますが、少子

高齢化の大きな原因は、結婚を控えた若年層の低所得化が著しく進んでいること、若い人の未婚化・晩婚化が進んでいること、結婚をしたとしても夫婦間の出生に関する認識が昔と異なることの3点であると考えています。出産祝い金を交付することも意義があることですが、この3つを解決しなければ、赤ちゃんが生まれておめでとうというふうにはならないのではないのでしょうか。

二海鷲ウイスキーの件ですが、町民のほとんどの人が分かっていないのが現状です。民間三社で設立した会社ですが、どのような会社が参加しているのか現時点で明確になっていない。民間企業については、建設工事が始まってから明確にしたいとのことだが、理由を知りたい。

令和8年度から設計、建設工事が始まり、令和10年度から蒸留を開始するという事は、最低でも熟成に3年時間を要する。令和13年目以降でなければ、ウイスキーが市場に出回らないことを考えれば、その間の雇用はどうなるのか。また、年間の醸造量はどのくらい見込んでいるのか。二海鷲ウイスキーの展望について、わかる範囲で教えていただきたい。

#### 【相木住民生活課長】

ご指摘のありました3点の課題は、様々な分野にまたがる複雑な問題であると認識しております。未婚対策として婚活支援といった取り組みは町でも取り組めると思いますが、町単独で3つの課題を解決するのは難しく、日本の社会全体の問題でもあるかと思っておりますので、国の対策を注視しながら取り組みを進めてまいりたい。

#### 【川口政策推進課長】

蒸留所建設費総額19億円に対して、国、町、設立した会社の各々が1/3を負担すると決めています。事業費が大きく、国の交付金を得なければ事業が進めることができない状況でした。先日、ようやく交付金の内示が出たことから、北海道新聞の取材に応じ、設立した会社の社名を公表しても良いと判断しましたが、参加している民間企業名の公表については、参加している会社の意向もあり、時期がきたら全国的に公表したいと考えておりますので、お待ちいただきたい。

地元の雇用については、今後、作り手や営業、マーケティング、経理等で約7名の雇用を想定しています。おいしいウイスキーを造るためには経験が必要なので、他蒸留所での製造経験があるメンバーなどのコンサルティングチームの支援を受けて製造し、その方々に蒸留に係るマニュアルを策定していただき、雇用した地元の方に対してレクチャーし運営していきます。

今後の戦略については、ウイスキーのラインナップを3年・5年・10年熟成で700mlが基本になり、飲みやすい200mlの小瓶やコラボ商品を想定しています。ウイスキーの購買意欲が高い“コア層”をメインターゲットにしており、その他“準コア層”には、缶用ハイボールや著名人のラベルを貼ったコラボ商品を販売する。価格帯については、他蒸留所の製品と比較して高くならないよう、3年熟成で1万円を切るくらいの価格帯を検討しています。販路別の目標販売本数は、国内においては7万本、海外においては3～4万本、年間11万本程度としています。各社、コネクションをお持ちなので最大限活用し、消費者や小売店に対して認知されることで販路の獲得をしていく。阿部委員が懸念している熟成期間中に売り上げがないことについては、ウイスキーの蒸留過程の“ニューポット”や“ニューボーン”を販売したり、海外から輸入したウイスキーを自社デザインボトルにボトリングして販売することで収入

を確保し、10年熟成の商品が販売される頃には約19億円の売上を目指すように計画を進めております。年間の蒸留量については、手元に資料がなくお示しできません。

**【阿部委員】**

事業を否定や反対しているわけではありませんが、利益が出てくるのは6年目以降という大変息の長い事業になりますので、戦略を携えないといけません。他地域の蒸留所では、成功事例として捉えられない例もあることから、この事業は困難な道になるのではと懸念しています。

**【稗田委員】**

秋サケ資源増大事業についてですが、人工的な放流ではなく自然産卵を増やすための環境整備をするという方向は検討できないでしょうか。

また、北大とのイトウの海中養殖の共同研究に取り組まれています。地域個体群とあって、川ごとに異なる個体を保全しようという方向にあるが、八雲で海中養殖をした個体が逃げて周辺に流されることになる。実際にニジマスの海中養殖を行っていますが、近くの定置網でニジマスがかかっているという話も聞いているので、完全に逃げ出すのを防止するのは難しいので八雲で手掛けてはいけないと思う。

**【吉田水産課長】**

秋さけ増大事業は檜山側の広域事業で、秋さけふ化放流事業に係る経費の一部を、奥尻を除く上の国からせたな町の5町で負担して行っています。漁協と事業を進めていますが、天然資源に配慮していないのかというと、そういう状況ではありません。親魚の確保という部分では、放流プラス天然資源の活用というのも、元々放流されているサケの親魚は、天然からのものも含まれて確保されていますので、私の方から具体的な話ではできませんが、配慮しながら事業が進められていると認識しています。

イトウの養殖試験では、昨年北大から種卵500粒を搬入し進めていましたが、ふ化した後に残念ながら途中で稚魚が病気にかかり全て死んでしまいました。令和8年度以降の具体的な取り組みはまだ決まっておられません。イトウの養殖試験の取り組みでは、地域個体群の保全は配慮しなければいけない事項と認識しておりますので、北大水産学部で関係するところに見解を述べられております。イトウの養殖に限らずサーモン養殖にも言えることですが、生け簀から逃げ出すことがないよう地域環境への配慮しながら進めていきたい。

**【稗田委員】**

イトウの海中養殖の見直しはしないということでしょうか。

**【吉田水産課長】**

見直しをしないということではなく、去年は稚魚が病気にかかり成功しなかった。今現在北大水産学部と協議しているところで、具体的にどのような取り組みにするのか決まっていない状況です。

**【稗田委員】**

イトウは海の中でも生きることができるので、海中養殖の可能性は十分あるが、やったことによって

逃走魚によって生態系の攪乱が起きると言う視点でやらないほうが良い。

それから、サケについては、毎年、撮影していたのに、遊楽部川の川底に砂が溜まるようになってから、毎年来ていたサケが来なくなった。地球温暖化の話が出る前から、泥水が頻繁に流れるようになって川の様子が変わって、サケがいなくなった。サケの繁殖環境を復元して、天然資源を増やす方向で考えていただきたい。

コンブ礁の造成についてですが、海底が砂地のところにコンブが無いように、岩礁でも砂を被ってしまうと胞子は育たない。海藻が育つよう、砂が被らない方法を考えたほうが良いと思います。胞子が付く地盤があれば岩礁でも育つということです。砂を被らない方法を考えていけば、自然の状態に手を加えなくても海藻が育つような環境ができると思うが、そういう方向で考えていただけないでしょうか。

**【吉田水産課長】**

コンブが生息する藻場が砂や泥で埋まると、それらが消滅するというはその通りかと思いますが、現在利用しているコンブの漁場では、河川からの流入する砂や泥のせいで漁場が失われているという認識はありません。過去に山越の沖合で囲い礁を整備しましたが、こちらの方でも砂や泥が理由でコンブが獲れないといった報告は受けていません。現状、囲い礁はナマコ等の生物もたくさん確認されております。おっしゃる通り、コンブ礁やアルガリーフといった漁礁については、効果を維持していくためにはコンブが付着しやすいように地肌を出してあげるなど管理していく必要がありますが、経費がかかることですので、検討を進めているところです。

**【稗田委員】**

山越の囲い礁のコンブの育ちが悪い。その原因が泥水ではないというのであれば、話を伺いたい。

**【吉田水産課長】**

平成 25-26 年ごろに整備したと記憶していますが、老朽化しており投入した囲い礁に石灰層等の付着が多くコンブが付かない。整備後 3、4 年はコンブが多く付いていたが、一時大量発生しウニによる食害が発生、海水温の上昇など様々な要因があります。また、入れた石がとげとげした形だったことからコンブの品質が悪く水揚げはあまりできなかったとも聞いております。

**(2) 令和 8 年度予算の概要について**

井口財務課長より資料 2 に沿って説明

**【阿部委員】**

資料 2 に記載されている、基金の残高の令和 7 年度見込額、令和 8 年度見込額と、令和 8 年 2 月の全員協議会の中で説明された見込額に大きく相違があるのはなぜでしょうか。

**【井口財政課長】**

配布資料は、令和 8 年 2 月の全員協議会の後に精査し、令和 8 年度の予算編成を行った段階の決算見込額を反映させた基金残高でございます。相違があった理由は、令和 7 年度当初の繰入金の子

算を31億4千万円と見込み、この段階金額を全員協議会で示しておりましたが、令和7年度の決算見込を精査したところ、13億3千7百万円になると見込みました。その他、9億5千万円の積み立て、決算を終えた段階で決算剰余金2億5千万円といった最終的な見込みを反映結果記載されている金額をお示ししています。

**【阿部委員】**

令和7年度で23億、令和8年度で27億円相違がある理由をもう一度教えてほしい。

**【井口財政課長】**

2月に説明した内容は、予算概要ということで説明させていただいたが、その時は予算ベースで算出しております。3月では各課から報告された決算見込みを反映させ、中期的な財政試算を行っている。最新の情報としては資料2の内容になります。

## 6 その他

**(1) 「第3期八雲町総合戦略の」の一部変更について**

植木政策推進課企画係長より資料3に沿って説明

**(2) 役場新庁舎建設事業の進捗状況について**

川崎総務課長および吉田新庁舎建設推進室次長より資料4に沿って説明

**【稗田委員】**

新庁舎建設にあたっては、太陽光発電を導入する方向で考えていると思いますが、ペロブスカイトを導入するための助成制度があるようなので、そういったことを調べて応募し、利用されてはどうか。

**【吉田新庁舎推進室次長】**

前回の設計の際に一度検討したことがありましたが、メーカーでも実証実験段階で、北海道の自治体に提供できる資料がないという段階でした。今後新たな計画を進める中で、もしかしたら実証実験に乗れる可能性もあると考えております。

**【稗田委員】**

是非モデル事業として取り入れていただきたい。

**【阿部委員】**

当初の設計では、ZEB基準の庁舎を設計するとのことだったが、今回の設計見直し際にはZEB基準の庁舎は考えていないということでしょうか。

**【川崎総務課長】**

当初の計画では、NearlyZEB 基準を追求して3億6千万円の補助金の採択に向けて事業を進めていたところですが、2回の入札を受けて事業費が多くなったことから、今後どのように進めていくか検討していく中で、庇を取るといった大きく設計を変更する場合は最初から補助金の申請をしなければならない問題がでてきました。新たに設計するにあたり、環境にやさしい建物を目指すことは変わっておりませんが、合併特例債の期限が令和12年度までという動かせない期限があります。新たな設計での補助金の採択を狙っていくと合併特例債の期限までに建物が完成しないという問題があることから、補助金を活用せずに ZEB Ready 基準の庁舎を目指しています。

**【阿部委員】**

元々NearlyZEB 基準で検討を進めていて、ZEB 基準にすることは検討しなかったのでしょうか。

**【吉田新庁舎推進室次長】**

当初から NearlyZEB を目指して計画していました。

**【川崎総務課長】**

補足ですが、NearlyZEB を追求すると、建物や設備の事業費が割高になってしまいますので、新たな計画では平米単価のコストを下げながら事業費の圧縮に努めていきたい。

**【佐藤（智）委員】**

合併特例債の額はどのくらいを見込んでいますか。

**【川崎総務課長】**

合併特例債が36億円程度ありますので、活用していきたい。

## 7 閉会

No.	区分	氏名	所属	備考
1	委員	大野 尚司	八雲町町内会等連絡協議会	
2	委員	井口 啓吉	熊石町町内会等連絡協議会	
3	委員	近藤 安幸	八雲商工会	
4	委員	梶田 孝女	JA新はこだて女性部八雲支店女性部	
5	委員	小川 勝士	八雲町漁業協同組合	
6	委員	鎌田 和弘	落部漁業協同組合	
7	委員	戸田 孝雄	八雲町社会福祉協議会	
8	委員	菅野 淳也	連合北海道八雲地区連合会	
9	委員	古澤 新一	八雲町スポーツ協会	
10	委員	天野 裕司	北海道労働金庫八雲支店	
11	委員	小笠原 英毅	北里大学獣医学部	
12	委員	加藤 雅美	(一社)おかえり集学校 泊川集学校	
13	委員	阿部 政邦	一般公募	
14	委員	佐藤 馨	一般公募	
15	委員	佐藤 智子	一般公募	
16	委員	稗田 俊一	一般公募	
17	町	萬谷 俊美	町長	
18	町	竹内 友身	副町長	
19	町	西田 浩人	教育長	
20	町	川崎 芳則	総務課長	
21	町	吉田 正樹	新庁舎建設推進室次長	
22	町	田中 智貴	危機対策課長	
23	町	井口 貴光	財務課長	
24	町	戸田 淳	政策推進課参事	
25	町	相木 英典	住民生活課長	
26	町	石黒 陽子	保健福祉課長	
27	町	藤田 好彦	建設課長	
28	町	横田 盛二	環境水道課長	
29	町	石坂 浩太郎	商工観光労政課長	
30	町	吉田 一久	水産課長	
31	町	加藤 貴久	農林課長	
32	町	三坂 亮司	学校教育課長	
33	町	佐藤 真理子	社会教育課長	
34	町	田村 春夫	地域振興課長	
35	町	河井 治彦	消防本部消防長	
36	町	長谷川 信義	八雲総合病院庶務課長	
37	町	川口 拓也	政策推進課長	事務局
38	町	宮下 洋平	政策推進課長補佐	事務局
39	町	植木 靖恵	政策推進課企画係長	事務局